



徳島市の中心部から車で約40分の神山町は、8割が急斜面の山林。人口6000人ほどで高齢化率も高い典型的な過疎地だったが、アーティストの移住支援などユニークな町おこしで活気を取り戻し、最近は地方創生のエースとして脚光を集め始めている。

日ごろは人気もまばらな山間地だが、3月下旬から1か月余は、国道438号沿いにある道の駅「温泉の里神山」や「神山温泉」、お遍路さんの通う四国霊場札所周辺をはじめ町全体が車や人であふれるほどになる。

風景街道の中心になって活躍しているNPO法人「神山さくら会」(粟飯原基行理事長、会員48人)が地域住民とともに長年少しずつ植樹し育ててきた桜が5600本を超え、町中をピンク色に染め上げるほどに生育し、町外からも花見客がたくさん集まるようになったからだ。

桜の7割がイトザクラとも呼ばれ大きく枝が垂れる独特な枝垂れ桜。「神山枝垂れさくら」と名付け、これは街路沿いを中心に植えている。公園や広場向けの桜も、北海道で育成された「紅豊」から、同町出身の桜愛好家が郷里に

# 街道染める「神山枝垂れさくら」

## 徳島県神山町 いやし・もてなし神山街道



咲き誇る枝垂れ桜と一緒に記念撮影

ふさわしい八重桜だと選ばしにくれた「神山さくら」で、ひと味違う趣がある。

「枝垂れ桜は全国の桜の1割程度しかなく、街道沿いの並木はとても珍しいそうです。私たちは「日本一美しい桜の里づくり」をキャッチフレーズに頑張ってきましたが、誇大宣伝じゃないのだと自信を持ちましたよ」

初代理事長で「日本さくら会」認定の「さくら功労者」に個人で選ばれ、今も会には欠かせない谷高重さん(92)は感慨深げに振り返る。

地元農業高校分校の元教師。定年で余裕時間ができたのを機に、過疎の進んでいく

ふるさとを「美しい花で元気にしたい」と、1996年ころから有志数人で桜名所づくりに乗り出した。2002年の会発足、07年の「日本風景街道」登録に際してのNPO法人化と一貫して活動の先頭に立ち、より美しい品種選抜にもかかわってきた。

重点的に植樹している「神山枝垂れさくら」は古くから地元で目立っていた桜で、町内のお寺には樹齢80年とされる見事な老樹もある。谷さんは半世紀ほど前から自宅庭に接ぎ木して育てていたので、会ではこれを母樹として毎年500本近い苗を畑でつくってきた。

# 花見シーズンには峠の茶屋を設置

苗木を買ってきたの植樹活動ではなく、苗ができたあとにも台木を植え、接ぎ木し、少し伸びてきたら枝を垂らすための支柱設置、防除、地域でも手分けして植え育ててくれる苗木配布、草取り……とほぼ毎週ある作業はかなりきつい。

数年前からは花見シーズンに峠の茶屋を設けて桜茶の接待、俳句大会も開催している。最近ではシーズン以外も訪客をおもてなしできるようにと、婦人部が中心になって桜を使った料理やお菓子、アイスクリームなどの開発と講習会も定期開催するようになった。



若い世代に桜の接ぎ木ノウハウを講習



紅色が特徴の「神山さくら」

ロコマークはコシンジュンコセンが手がけ、日本の象徴富士山をモチーフに、歴史や文化が道路を介して未来へと続いていくことへの願いをこめて表現した。

った。

会員の平均年齢が70代と高齢化が心配だが、地元の中学、高校生に総合学習で接ぎ木指導をした縁で、地域では若い植樹参加者も増えてきた。

さすがは、道路の維持管理をお役所任せにせず地域住民で自主的に取り組もうという米国の「アドプト制度」を日本

本で最初に採用した神山町だ。これにならって国土交通



俳句大会の優秀作を記入して桜のそばに飾る

省が始めた「ボランティアサポート制度」は全国に広がっている。

アドプト制度を率先取り入れた同町の心意気は、空き家を活用した移住者支援など注目を集めているまちおこしの原点になっているようだ。

そういえば、「日本風景街道」の合言葉は、「さあ、みんなで美しい道づくり、



「お遍路さん」にも見所の案内

まちづくり」だったなど改めて思い起こされた。

「まちおこしの勉強に役立つほど増えてきた全国からの視察旅行者にも桜のおもてなしが歓迎されているので、今後はお花見客がくつろげる広場づくりも進めたい」と、粟飯原理事長、中井逸文事務局長。「いずれは1万本植樹も」と夢は膨らみ、まだまだ当分手を抜けそうもない。

いて討議した。

### ■道路景観向上へ 意見交換会

日本風景街道の推進に道路管理者や行政がどう取り組むかを討議する意見交換会が1月、都内で開かれた。

北海道開発局が「シーニックバイウェイ北海道」で進む景観改善の取り組みを、宮崎県と宮崎市が「日南海岸きらめきライン」の沿道修景策を、福井県若狭町が「若狭熊川・鯖街道」で国の重要伝統的建造物群保存地区に指定されている熊川宿のまちなみ保全について、それぞれ道路管理者や行政としての取り組みを発表。

その後、道路管理者の役割を踏まえた道路景観づくりの継続的な推進を目指す方向性について話し合い、道路管理者が率先して住民や地域と連携することによって風景街道の取り組みを進めていくことを確認した。

### ■道の駅との連携強化、 拡充を確認

各地で風景街道の活動を進めている団体の交流、自主研修を目的とした「日本風景街道大学宮崎本校」が1月、宮崎市内で開かれた。5回目の今回は「日本風景街道における道の駅」がテーマ。

全国から約140人が参加。宮崎市が行政からみた市内道の駅の現況と展望を、宮崎県内の道の駅「かまえ」「北川はゆま」など4駅が道の駅の現状と課題を、国土交通省九州地方整備局が第2ステージに向けた地方の拠点とネットワーク化について、本四連絡道「しまなみ海道」の道の駅関係者がサイクルツーリズムの概要について、それぞれ発表した。

その後2日間にわたり、日本風景街道と道の駅との連携のあり方や、サイクルツーリズム、地域ができるおもてなし等につ